



口で「フツ」と吹きかけエサを探している

カワハギの暮らし

私が主に潜水する錦江湾や笠沙エリアで年中見られるカワハギは、沿岸の浅い砂地や、岩礁域で見られます。繁殖期が春〜初夏なので、栄養を蓄(たくわ)えるためか、冬にはエサを探している様子をよく見かけます。そのエサを探す行動はユニークで、尖った口から「フツ」と勢いよく砂や岩に吹き出し、砂に隠れている小さな甲殻類や貝類などを捕食していることが知られています。カワハギが獲物を狙っている時は、まわりの砂がモワモワしていて、目に付きやすいです。

晩春、水温が20℃近くになり、繁殖行動が活発になります。メスをめぐってオス同士の激しい闘争が見られます。オスは互いに睨(にら)み合い、クルクルまわりながら浮上し、時には噛(か)み付く様子も見られます。闘争している時は、だいたい近くに、メスの姿が見られます。



マダイの大群、現る!

鹿児島本土の中心に位置する錦江湾は、活火山である桜島の影響を受け、栄養が豊富で漁業が盛んです。多くの方々が、さまざまな釣りを楽しんでいる海です。

そんな海で、3年前の秋に思いもよらない出来事が起こったのです。浅場で潜水していた際、全長約25cmのマダイが日ごとに増加し、最盛期には、その数が数万匹に達するほどになりました。原因は不明でしたが、観察を続けてみることにしました。

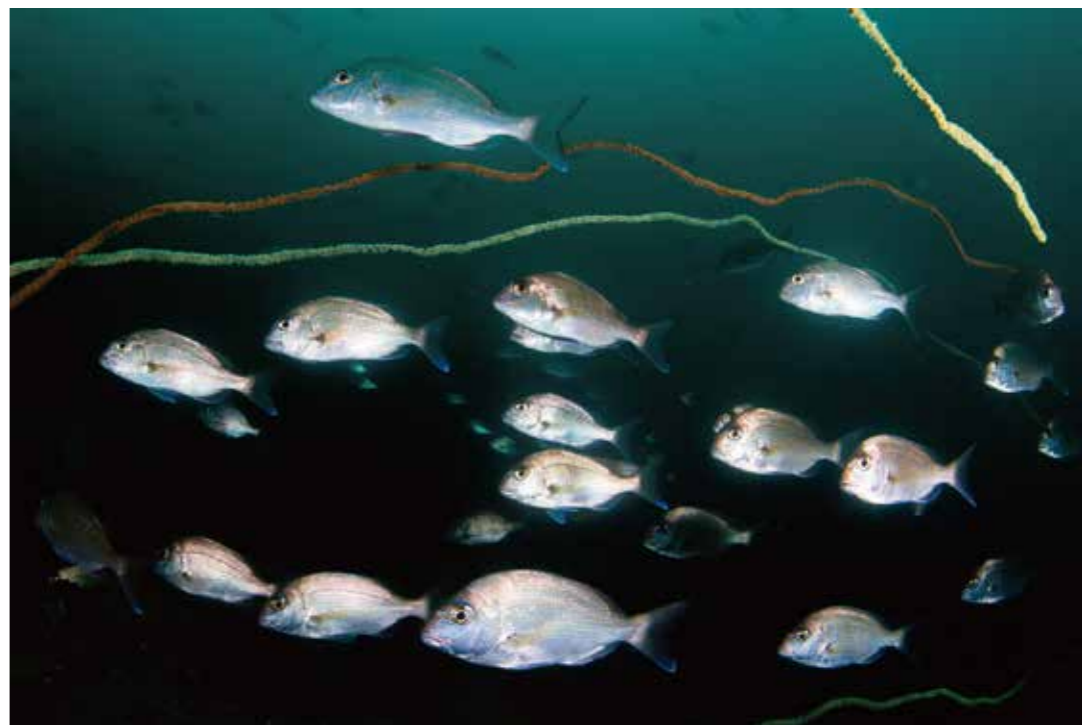
薄暗い海中で、淡いピンク色のマダイが大群で泳ぎ、周囲を美しく彩(いろ)っていました。



雄大な桜島と漁船が並ぶ錦江湾



オス同士の闘争、互いの体に激しく噛み付いた跡がある(南さつま市笠沙)



群れるマダイ 2022年12月吉野町沿岸沖



漂う海藻に隠れるカワハギの幼魚

魚のお掃除屋さんで有名なホンソメワケベラにクリーニングを受けている姿も見られます。気持ちよさそうな時は、体を倒してリラックスしている様子も見られます。

夏の台風後、海に漂う海藻を見ていると、カワハギの幼魚を見かけました。

旬の時期にこそ、それぞれの魚に注目しがちかもしれませんが、日々懸命に生きる魚たちの姿も要チェックです。



ホンソメワケベラからクリーニングを受けている



大きな口を開けて威嚇するマダイ



海藻を口に入れるマダイ

マダイたちの行く末は……

ほとんどの個体が腹部が凹(くぼ)んで、潮流によって流されてきた落ち葉や海藻など、さまざまなものを口にしている様子が見られました。当然ながら、食べ物ではないと気付くと口から吐き出します。

大量発生すると、自然界でのパランスは崩れ、食べ物もなくなるのです。ほかにも、砂を口で掘っていると、ほかのマダイが「そこに食べ物があるの?」という雰囲気が集まってきます。掘っていたマ

ダイは「こつちに來ないで!」と大きく口を開けて威嚇(いば)するではありませんか。せつかく食べ物を見つけてもゆつくり食べる時間はなく、ほかのマダイに奪われるなど、争いが絶えない様子です。

ほかにも、マダイの大群を狙って、大きなカンパチやブリが回遊している様子や、海底に大きなヒラメが隠れていました。マダイは捕食されることや食料不足が影響しているのか、個体数は少しずつ減少していききました。

それから3年が経過し、今シーズンも全長約20cmサイズのマダイの群れに出会うことができています。群れの数は少ないものの、少しでも子孫を残し、再び同じ場所ですれに遭遇できたことに感動を覚えました。「魚の大群」という言葉を耳にすると、多くの方がうれしい気持ちになることでしょう。

しかし、海中では生き残るために懸命に生活している魚たちの姿があります。これからのマダイのシーズンに向けて、懸命に生きるマダイの姿を知ってほしいです。



meitegana Instagram

文・写真 射手園芽(イテゾノメイ)

鹿児島県南九州市出身
鹿児島本土で活動する水中ガイド・写真家
幼い頃、父親に連れられ釣りをきっかけに海に興味をもち、自分の目で海の中を見てみたいと思いました。
地元、鹿児島本土でダイビングができると知り、2014年ダイビングライセンスを取得。

